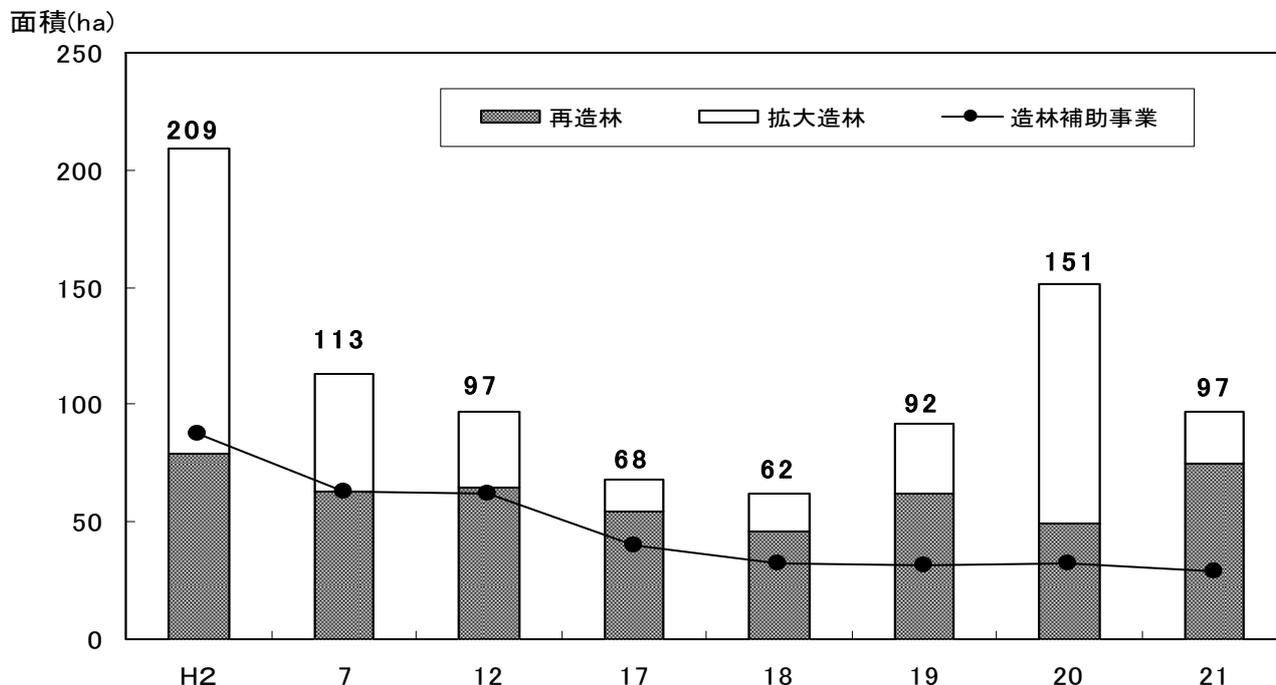


2. 森林の整備

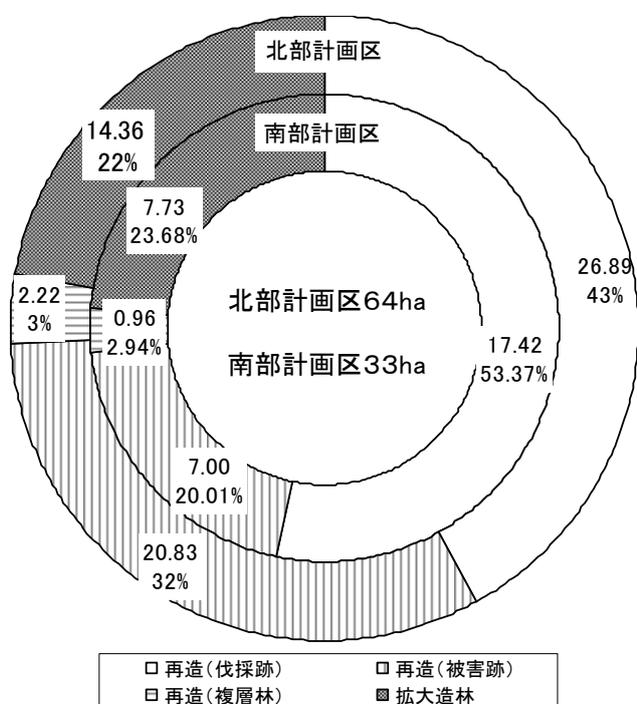
(1) 人工造林

—造林面積が大幅減少—

造林種別人工造林面積



地域別人工造林面積



本県の人工造林面積は、平成19・20年度と増加傾向にあったものの、平成21年度は97haとなり、平成12年度水準となった。

この内、補助造林面積は29haであり、前年度より3ha減少したことから、人工造林面積に占める割合は、30%となっている。

造林種別内訳は、再造林が前年度より26ha増加して75ha、拡大造林が80haと大幅に減少して22haとなっている。

21年度実績を地域森林計画区別に見ると、北部計画区が前年度より12ha減少して64haとなり、その内訳は、再造林が50haと78%を占めた。

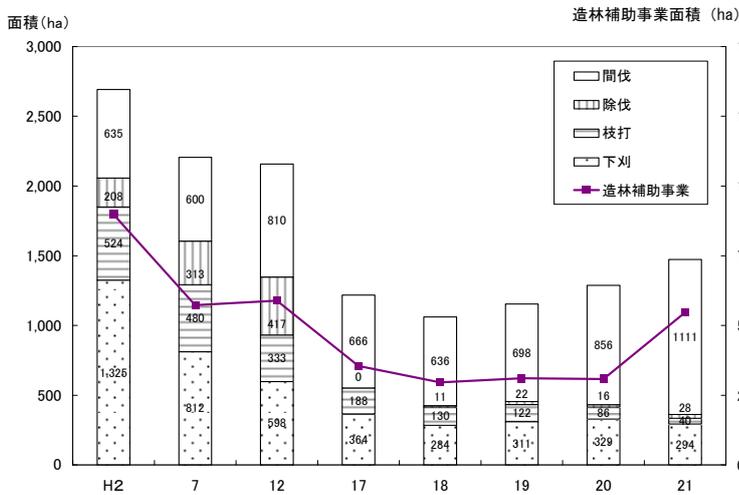
一方、南部計画区は前年度より41ha減少して33haとなり、内訳は、再造林が25haと76%を占めた。

また、造林樹種別の面積構成は、スギが39%(38ha)、ヒノキ17%(16ha)、マツ18%(17ha)、広葉樹26%(25ha)となり、前年度に比べヒノキ、マツの割合が増加し、スギ、広葉樹の割合が減少した。

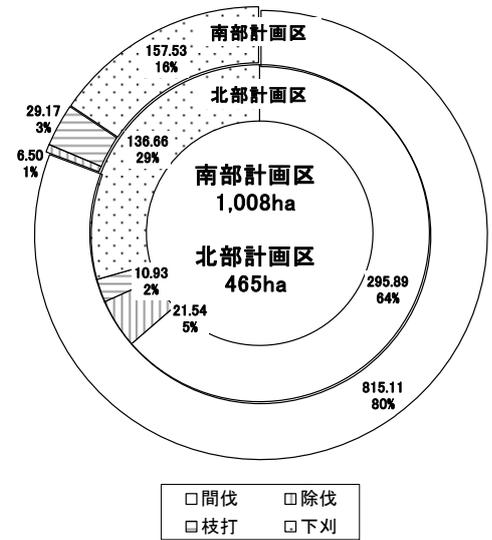
(2) 間伐・保育

—間伐・保育実施面積が増加—

間伐・保育面積の推移

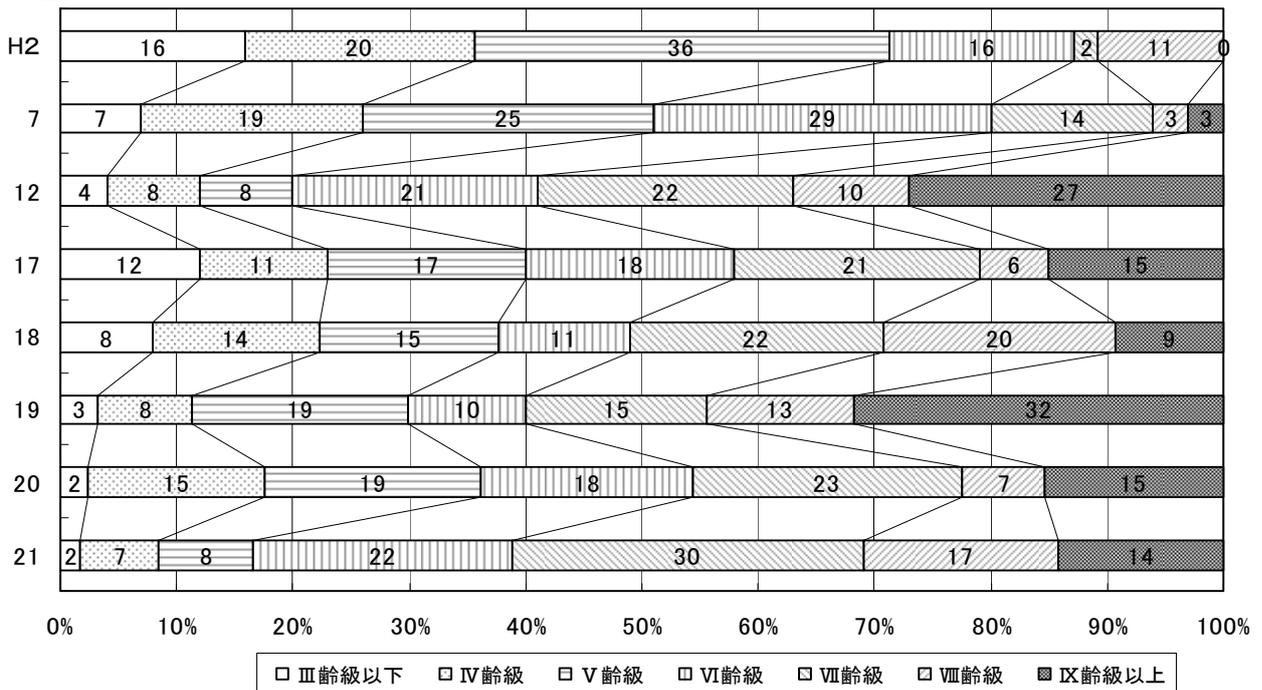


地域別間伐・保育面積



間伐の年齢構成の推移

単位: %



本県の間伐及び保育の実施面積は、16年度より、1,000ha～1,300ha程度で推移していたが、21年度は1,473haと前年度より185ha増加し、15年度の水準となっている。

種類別には、除・間伐が昨年度より267ha増加したのに対して、枝打ちが46ha減少して40haとなり、7年度の1/12の実施面積となった。

21年度の地域別傾向としては、南部計画区1,008ha、北部計画区465haと南部計画区に集中した傾向となっており、その種類別内訳は、北部計画区が下刈29%、間伐64%に対して、南部計画区では下刈16%、間伐80%となっている。

間伐実施面積構成を年齢別にみると、20年度はⅤ年齢以下の割合が36%であったが、21年度はⅤ年齢以下が19%減少し17%となり、間伐の高齢化が進んでいる。